

令和7年度
議事録 第3回 CS（学校運営協議会）

日 時：令和7年9月18日（木） 15:15～16:15

参加者：津波古 充仁、西銘 宜正、上原 良三、仲本 多美子、普天間 邦光、上原 幸治、
上江洲 太志、校長、教頭、市教委（中上 郁夫参事、仲宗根 みゆき・出口 由香
地域連携コーディネーター）

【会順】

1 学校長挨拶

2 熟議

(1) 1学期の学校評価について

委員：学校行事や PTA 行事等の回数は？すべての行事が全員参加か？

教頭：本校では、保護者の皆様に子どもたちの学校生活をご覧いただけるよう、月1回のペースで授業参観や学校行事等を設定している。また、授業参観や学級保護者会は自由参加だが、個人面談は全家庭にお願いしている。個人面談は期間を設け、保護者ご自身で都合のよい日時を選択していただいている。

委員：高学年に上がるほど家庭学習の習慣化が数値的に低い。また、「学ぶことが好きか」、「地域や社会がよくなるために、どんなことをしたらよいか考えることがあるか。」の質問も同様である。私的な意見だが、「授業が分からない」という子は少なからずいる。それが学習意欲にも結びつく。家庭学習も自分1人では処理できないという背景があるのであろう。だから、小さいときから手厚く子どもたちに対応していかないといけない。これは、学校だけの力ではできない。家庭もいっしょに。そうしないとこの項目は数値的には上がらないであろう。また、親と将来の夢や希望について話す項目も低い。今、家族で一緒にご飯を食べる家庭がどのくらいいるのだろう。1人で食べているということも聞く。何ができるか分からないが、子どもや家庭をどうにかしないといけない。中学校に上がるともっと大変だろう。

委員：中学校では来る日曜日に「ふるさと伝統祭り」が行われる。今回から自主参加の形をとる。参加しない子は運営にまわるがその数の多さに驚いている。子どもたちの自主性も尊重しなければならない。そのバランスが難しい。

委員：本校の「地域が良くなるためにどんなことをすれば良いか、考えることがある」の項目が低いことと密接に関係していると思う。地域とふれ合う機会をどうにかしないといけない。子どもたちが地域に戻ってくることを考えなければいけない。高学年になればなるほど、部活に入っている割合も増える。部活の大会と地域行事が重ならないようお願いしたい。

教頭：小学校では「字児童会」として、夏休み前に支部長さんをお招きして、各支部の夏休みの取り組み等を話し合う機会を設けている。そこで得た情報をスポ少さんとも密に共有していく。また、PTA の「ふれあい委員会」を中心に、家庭学習の習慣化を図り、期間中の取り組み結果を児童玄関に掲示している。家族でご飯を食べるのもバラバラかもという話に関し、PTA で何か取り組めることがあれば、教えていただきたい。

委員：家庭学習と直接関係ないと思うが、夏休み明けの各種コンクールの取り組みはどうなっているか。

委員：ある団体からお願いしている立場として、授業とは関係のないことをお願いし、先生方に負担をかけていることを心苦しく思っている。

委員：受賞が多い学校は、そこに特化した先生がいることもある。

校長：外部から多くの募集が来るので、家庭で子どもが関心のある、また、好きなものを選択してチャレンジするという視点で、募集要項等を HP に掲載している。また授業では、学習指導要領に則って、「身につけさせること」を重点的に、過度な指導内容にならないよう留意している。

(2) 2 学期の行事（10 月 5 日の授業参観・大北まつり、運動会）について

(3) その他

- ・ 3 月の CS 会議の日程変更について（3/12 → 3/11）
- ・ 市の家庭教育の取り組みについて（中上参事）

全国的に家庭教育に課題がある。家族で食事をとにもする時間をとれないのも実状。いろいろな家族構成がある中でなかなか家族と話す時間が作れない。時間があると話もできるのであろうが……。市としては啓発活動をする、それ以外に地域の方が子どもたちともっとふれ合う機会がとれたらいいなと思う。その中で、今度の大北祭りは地域の方とふれ合ういい機会だと思う。